

タイトル	著者名等	内容
わたしの空と 五・七・五	森埜 こみち	<p>中学1年生になったばかりの空良。「自分のやりたいことがわからない」となかなか部活を決められない。</p> <p>そんな時、下駄箱に1枚の紙が……。一しゃべりは苦手でもペンをもったら本音をぶちまけられる者よ！文芸部に入るべしー</p> <p>「俳句」を題材にしながら、友達、ほのかな恋心を描いたさわやかな物語。やさしい挿絵とわかりやすい文章で楽しく読める一冊。</p>
僕は上手にしゃべれない	椎野 直弥	<p>「吃音」を抱え、苦勞をしている主人公、柏崎悠太。中学校の入学式の日自己紹介から物語は始まる。頭の中で言葉を組み立て、心の中でつぶやきながら話す。言える。大丈夫。言える。……。言えなかった。こうやってずっと僕は逃げ続けるのか。</p> <p>自分との葛藤の中で、ある部活動の勧誘チラシに惹かれる悠太。出会いそして前進の物語。</p> <p>著者自らも抱えている「吃音症」。自分が本の力で助けられたように他の誰かのことも助けたい、そんな思いをこめた一冊。</p>
空へ	いとう みく	<p>3か月前にとぅちゃんが死んで、かあちゃんと妹の陽菜、そして6年生のオレの3人暮らしになった。</p> <p>かあちゃんと陽菜のことはオレが守る、かあちゃんががんばれないときはオレががんばる、と言ったものの、自分にできることはあまりに少ない……。いろいろな人と関わっていく中で、少しずつ変化していく主人公。そして、とぅちゃんの好きだった神輿をかつぐ決心をしたオレ。力いっぱい、空へ、空へ、空へ、突き上げる。</p> <p>父親の急死から1年間を描く、辛いことがあっても投げ出さず現実と向き合った少年の物語。</p>

〈お問い合わせ先〉 三浦市図書館

〒238-0298 三浦市城山町1番1号 第2分館内 ☎882-1111(内線415)